

「今年には全社で5Sを徹底する!」というのが30期を迎えたオーティーエスの全社を挙げての課題だ。そんな5S徹底の年に5S委員会の委員長に就任した葛西センター副センター長の杉山に、オーティーエスとしての5Sと、今期の意気込みを語ってもらった。

5Sの底上げを目指す

Q 今期の5S委員会が目指すところ

過去の自分もそうでしたが、5S活動を単なる掃除の徹底や整理整頓をすることだと考えている人がまだ多くいる気がします。もちろんそういった美化活動の意味合いもあるのですが、今期は業務効率の改善・コストの削減という観点から5Sを推し進めていきたいと考えています。

現在進めている計画としては、これまで社員だけが対象だった5S教育を全センターのパート社員(約560名)にまで広げようと計画しています。いくら社員が現場の5Sに気を配っても、実際に現場で作業に

Open Talks!

Newspaper of the Month (March 2016)



▲整理・整頓・清潔・清掃の4Sに「しつけ」を加えた5S
携わっている多くのパート社員の理解と協力がないと大きな改善はできないと考えています。先日、5S委員の全メンバーで外部の5S研修に参加しました。自分たちにはなかった新しい視点や、具体的な取り組み方を学ぶことができた、非常に有意義な研修会にすることができました。

この研修で学んだことを、オーティーエスの業務に合うように噛み砕き、パート社員研修を行っていきたいと考えています。

Q オーティーエスの「5S」とは?

「正常」と「異常」を誰にでもわかるように可視化していくことだと思っています。業務の特性上、オーティーエスの現場は人口密度が高く、また今は時期的にも繁忙期に入ってきているため、気を抜くと現場に人と商品が溢れかえってしまい、ミスや時間のロスにつながるだけでなく、一歩間違えばケガや事故にもつながる危険性があります。そのため普段から、「これはここに置く」「これはこの順序で保管する」といったルールを作ったり、誰にでもわかる表示や掲示をすることで、正常から外れた「異常」をいち早く見つけることができると思います。

異常が見つけれられれば、そこを正常に戻すのは簡単だと思っています。最も重要で難しいのは異常に気が付くことができるかどうかということだと思っています。



そのためには社員一丸となつて普段から5Sを意識して仕事をしていくことが大切だと思っています。動線の表示(臨海センター)や、全フロア共通の看板の設置(葛西センター)、備品置場のライン引き(本部)、刃先の取れないカッターナイフの導入(新砂センター)等、自分たちでできることから各部署で5Sに取り組んでいます。

▶「カイゼン」で有名な某企業の5Sセミナー受講後のグループワークの様子。20名の5S委員が参加しました。



▶刃先が取れないカッター(右)と通常のカッター(左)。商品に刃が混入するのを防ぐため新砂センターにて導入されました。

▲臨海センターでは全フロアに動線確保のラインが引かれました。通路スペースの確保により、作業効率の低下を防止できます。

Q 物流センターのショールームとは

5S活動は仕事の効率化や、職場の安全性向上に直結しますが、最終的な目的は自分たちの為ではなく、効率化によるコスト削減や保管品質の向上でお客様のための現場づくりをすることだと思っています。

お客様には度々倉庫にお越しいただく機会がありますが、その時にオーティーエスの社員に聞かないと、何がどこにあるのかさっぱりわからないような雑然とした倉庫ではお客様に安心して商品をお預けいただくことができないと思います。お客様が「自社の倉庫のような安心感」を持ってオーティーエスに商品をお預けいただけるといい現場を作りたいと考えています。

「物流現場はオーティーエスのサービスのショールームである」という意識を持って5S活動に取り組んでいきます。



5S委員会委員長 杉山

長年連れ添った相棒 Desk SNAP

最後の一筆はこだわりの万年筆で



田中会長が20年以上愛用しているという、モンブラン社製の万年筆。重要な書類や、大事な手紙にサインを入れる時に必ず使用する、キメの一品。会長使用の万年筆は、インクを本体に組み込むカートリッジ式ではなく、都度インクタンクからインクを吸い上げる必要のある吸入式タイプ。インクの補充に手間がかかりますが、その手間こそ万年筆の醍醐味でもあり、大事な書類にサインを入れるのに相応しいアイテムといえます。利便性や効率性だけを求めず、品と質にこだわった道具で仕事をする姿に、会長の美学と相手への敬意を感じることができました。



モンブラン
1906年に創業されたスイスの高級筆記用具ブランド。誰もが知っている白い星形のマークは雪に覆われた白山(Mont-Blanc)をイメージしたものです。

美食村

扉の中は黒竜江省 親しみの中国東北料理
食事処の少ない南葛西地区において、長年本格中華を提供してきた名店中の名店。ランチは700円からお手頃ながらも、何を注文してもボリュームは満点。ディナータイムは食事だけでなく、飲み会にも使い勝手がよく、近隣の住民でいつも賑わっています。憩いの場としても愛されてきた美食村ですが、3月12日で惜しまれつつ閉店となります。葛西センターにお越しになった際は、最後の美食を堪能してみてくださいはいかがでしょうか。

